若狭たかはま de WAA!

高浜町の新たな取り組み、西の鯖街道のニューライフスタイル提案
ワーケーションの実証的事業報告

高浜町では、ポストコロナの社会で誰もが場所の制約を受けない新しい働き方としてワーケーションに注目し、二〇二〇年十一月十九日(木)から三日間、実証的事業として取り組みました。

ワーケーション とは、work（ワーク）と vacation（バケーション）の造語で、観光地やリゾート地でテレワーク(リモートワーク)を活用しながら、働きながら休暇をとる過ごし方 在宅勤務やレンタルオフィスでのテレワークとは区別され、働き方改革と新型コロナウイルス感染症の流行に伴う「新しい日常」の奨励の一環として位置づけられています。この社会的トレンドを、高浜町の良好な環境を活かした高浜の活性化の糸口とするために実施しました。今回参加された方々の声をもとに、高浜町総合政策課主査 野村 つとむが報告致します。

今回のモニター参加の団体

Team WAA!

京北が納豆発祥の地とは驚き！

京北・美山の山里での交流

京北郷土食「納豆餅」

元京都府民だったのに知らなかった京北の納豆餅！

京北地域でいただいた「納豆餅」を実家で美味しいいただきました。冷凍保管が必要でお世話になった高浜町のお宿にもご協力いただき冷凍保管していただきました。ありがとうございました。お餅は、京北産の天日干しした餅米使用。納豆は、京北の山国納豆。今回訪問するまで、元京都府民の私なのに納豆が京都発祥とは知らなかった。

往路を振り返って、京都から西の鯖街道を北上して福井県高浜町へ移動するなかで、京都・高雄の紅葉が美しく、また地域を盛り上げてらっしゃる京北地域も訪問。なんとこのあたりは、納豆発祥の地ということで、初めていただいた納豆餅は絶品でした。高浜町に入る前から、こんな驚きの体験をアレンジしてくださった高浜町の野村さんに感謝！

あの安倍清明の子孫が伝えた「暦」がここで息づいているとは、驚き！

天社土御門神道本庁

暦会館

日時計

京都から西の鯖街道を通り福井県高浜町に向かう途中で立ち寄った、福井県おおい町。応仁の乱により都から名田庄の荘園に移住した「暦」を司ってきた土御門家の資料や暦に関する資料が保管されている暦会館に立ち寄りました。

暦は人びとと自然が共生する役割を果たしてきたもので、文盲の人たちにも読めるような絵文字の暦が実にユニークでした。

令和版も展示がありました。暦会館のエントランスにあった日時計がぴったり時刻をさしているのにもびっくく。また、陰陽道の末裔で今も暦を編集されている方を訪問、土御門家は安倍清明の子孫。

滞在型ワーケーションの聖地・高浜に、また是非訪れたい！

人生初の福井県！福井県高浜町大成寺で坐禅体験。呼吸を整え自分に向き合う時間からスタート。

坐禅体験

坐禅の極意は、自分を生きる事。自分はココ（自分のコア）にアルという肯定感。坐禅は苦行ではなく、楽しむこと。

世界に禅を「NIN」として広めた釈宗演ゆかりの福井県高浜町。未来の働き方を探ろうと、心も身体もデトックスできる滞在型のワーケーションの聖地 高浜町。また是非訪れたい。

初めて知った伝統産業「墨流し」が、とても印象的！

越前墨流し

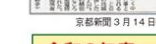
ご当地アクティビティなど平安時代から伝わる、墨流しなるアート体験を書家の先生に教わる。

もっと早く来れば良かったと思う、高浜の素晴らしい景観と環境！

未来の働き方ワーケーションお試しに福井県高浜町滞在。「元京都府民ながら初の福井県。もっと早く来る機会があればよかった。

若狭富士とも呼ばれる青葉山を望むビーチは穏やかで透明度が高く、まるでゴーギャンの描いた南太平洋の島の楽園のようなランドスケープのよう。宿から町に移動する途中、車中から見えた休日の海は朝から 釣りや サーフィンなどの海遊びをする人たちでいっぱい。

滞在したお宿周辺の日引（ひびき）地区は「日本の棚田百選」にも選ばれた棚田と漁港のある地域。フグの養殖もする漁師さん達の海。



若狭富士と透明度抜群の海岸

高浜の人達の温かさとパッションに触れ、心身共にフレッシュアップ！

◆Zen & Mindfulness の高浜町

WFH（Work From Home・在宅勤務）の進化系として注目されるワーケーション。各地の魅力を活かしたコンテンツデザインに注目中。

高浜町の魅力は身体も心もデトックスして英気を養う長期滞在型のワーケーションの聖地のような潜在性と、町の人びとの魅力。

若い人たちもシニアも高浜町が大好きで高浜町を元気に盛り上げようと交流活発。また高浜町に行きたいなと思えたのは、町の人たちの温かさや、パッションを持った人たちに触れられた事。

高浜の人達との交流

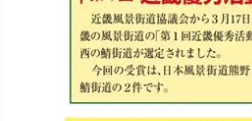
美山もワーケーションプラン催行中！

美山の自然を楽しみながら仕事して！

京都・美山、4施設無料提供の「ワーケーションプラン」

京都府南丹市美山観光まちづくり協会は、自然を楽しみながら少人数で仕事ができる「京都美山ワーケーションプラン」を作成。新型コロナウイルス禍で、観光だけではない美山の新たな可能性を掘り起こそうと試みています。同協会が観光地で休暇を兼ねて働く「ワーケーション」に着目。テレワークなどで家に閉じこもりがちになっている人に向けて企画しました。

詳細は、「美山ナビ」をご覧ください。



町内の施設を借りて会議する参加企業の社員

若狭高浜・おおい・美山・京北を結ぶ街道通信

西の鯖街道かわら版　VOL.18

編集／西の鯖街道協議会事務局　京都市右京区京北下中町鳥谷2　あうる京北(京都府立ゼミナールハウス)　TEL.075-854-0216　2021年3月発行

『西の鯖街道読本』完成記念講演　京都府立京都学・歴彩館大ホール

愛宕信仰と西の鯖街道

松明行事に見る京と若狭のつながり

西の鯖街道には、上松、松上げ、大火勢と呼ばれる火祭が伝えられています。いずれも愛宕信仰と深く結びつく祭です。五山の送り火の研究などで知られる佛教大学歴史学部教授の八木透先生をお迎えし、更に京都市右京区京北・南丹市美山町・福井県おおい町・高浜町の郷土史家の皆さんなどをお迎えして、各地域に残る西の鯖街道の火祭りの系譜をさぐりました。

コメンテーター

武村 享導 氏（高浜町）
（一社）若狭高浜観光協会

柿村 貴則 氏（京都市右京区京北）
「西の鯖街道読本」小浜街道鉄筆者

中野 英二 氏（福井県おおい町）
名田庄応援隊

小畑 正彦 氏（南丹市美山町）
郷土史家

B５版51ページカラー
当日参加された皆様に記念品として配布。
※ご希望の方は、西の鯖街道協議会事務局まで
TEL. 075-854-0216
￥500（送料込）

愛宕信仰の松明行事の二つの流れ

京都市左京区花背、広河原、あるいは小塩などの松上げ行事を、「柱松系の松明行事」と呼ぶとして、右京区京北、南丹市美山などは、この系統。その原初形態は、丹波や若狭では山の頂にある松のご神木に向かって小さな松明を投げ上げる比較的素朴なもの。一方、福井県おおい町のオガセに代表される松明行事は「十二灯系の松明行事」と呼ぶ。その起源は「十二灯型万灯籠」であり、十二は言うまでもなく「月」を表す。言わば一年の象徴。また、「五山の送り火」は万灯籠の一種であると考えられる。

「万灯籠」には変遷があり、カセに松明を付けて点す十二灯型から、更に巨大化と共に山の斜面に火を焚くものへ展開し、最終的には「五山の送り火」となったのだろう。つまり、「柱松系の松明行事」には、初めの段階から修験道の影響があり、「十二灯系の松明行事」と成り立ち自体を異にするのではないかと考えられる。

京都新聞 3月14日朝刊掲載

2系統の松明行事

松上げ

大火勢

令和2年度「第1回 近畿優秀活動賞」を受賞！

近畿風景街道協議会から3月17日(水)近畿の風景街道の「第１回近畿優秀活動賞」に西の鯖街道が選定されました。

今回の受賞は、日本風景街道熊野と西の鯖街道の２件です。

近畿風景街道協議会の宗田好史会長より矢谷西の鯖街道協議会会長へ賞状が授与される。

佛教大学歴史学部教授
八木　透 先生

佛教大学歴史学部教授、1955年、祇園祭鉾町の家系に生まれる。京都生まれの京都育ち。祇園祭鉾傘保存会理事はか多数歴任。佛教大学の学生や卒業生とともに祇園祭の後継者問題だけでなく、歴史や途絶えた伝統の復活にも一役買っている。これが目的で佛教大学に入学してくる学生もいるほどである。